

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500024		
法人名	医療法人社団田口会		
事業所名	グループホーム コアラⅡ		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

充実した設備(自家発電機、プラズマクラスターイオン、ジェットパーフェクター、非常食、スプリングラー、防犯カメラ、浴室ヒーター)が整っている。LINEを開設し、ご家族様に個別に日々の様子や活動などを発信している。ブログでも情報を発信している。定期的な消毒や換気を行い、ウイルス感染対策に努めている。四季を感じられるよう中庭に花や野菜を植えている。消防立ち合いの避難訓練に加え毎月一回、自主避難訓練を行っており、火災以外の訓練を行うことであらゆる災害に備えている。利用者様の誕生日には職員による手作りケーキでお祝いしている。近くに協力医療機関、消防署、災害時の避難場所があるので災害時や急変時に安心していただける立地条件である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自分の力でできることがあると感じられることは、利用者にとって喜びである。施設内で利用者自身が役に立っていると思える役割を職員が見極め、畑仕事や家事、車椅子のチェック等に力を活かし、その機会や環境を提供している。前回の外部評価の結果を受け、利用者がホワイトボードに献立を書き掲示していることが、利用者にとっては今できる役割の一つとなっている。また、自分でその日の服装を選んだり、異性介助を拒むこと、レクや外出時には利用者の意向を反映させる等、利用者本位の場面がある。意思を持って自由にしたいように過ごす、その人に合わせた形、生活しやすい環境を支援することが、利用者の笑顔で穏やかな生活につながっている。理念や基本姿勢に沿った日々の取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「信頼・安全・友愛」と年間目標を事務所に提示し、統一した支援を心掛けている。	法人理念の他、事業所の年間目標を定め掲示している。管理者は日常的に理念を説明し、理念に基づいて、職員がゆっくり時間をかけ、自信を持って支援に就けるよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政で活動しているボランティアの方に慰問をしていたいたが、新型コロナウイルス感染対策の為に中止している。	コロナ感染症が5類に移行となり、ボランティアの受入れを考えているが、インフルエンザの流行で見合わせている。地区代表や市の広報から地域の情報を得て、利用者に伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を新型コロナウイルス感染対策の為に、見送っていたが、再開する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策の為に、見送っている。	市から運営推進会議中止の要請があり、令和2年5月以降開催していないが、12月より再開を予定している。家族には毎月「コア新聞」やその都度LINEで利用者個人の様子を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点などがあれば市役所に相談している。	ケアマネジャー、管理者が要介護認定の更新代行、認定調査の立会いを行っている。報告や相談がある場合は管理者が電話等で直接、市の担当者と連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様に説明、同意を頂き必要な時間、玄関の施錠を行っている。身体拘束の勉強会を行い知識を得ている。	玄関は夜間は施錠しているが、日中は開錠している。3ヶ月毎に身体拘束、虐待防止について勉強会を開いている。現在他の拘束はなく、該当者もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会会議を三ヶ月に一度開催し、不適切なケアが無いよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はこの制度を利用している方はいないが、勉強会を開き学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問点が無いよう確認しながら詳しく説明している。質問に対して親身に応え理解、納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一度満足度調査を行い、ご家族様から評価、ご要望を頂ける機会を設け、その都度迅速に対応している。	困っていること、不安に思っていること、暮らしぶり等について満足度調査を実施し、家族からの回答を支援に活かしている。利用者が思うように生活できる環境を提供し、利用者の声に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度職員会議を開き意見を出し合える場を設けている。普段からコミュニケーションを図り、意見を出しやすい職場にしている。	職員会議や食事中でも気軽に支援等について話ができる雰囲気がある。その都度提案があり試しながら実践し検証している。管理者は職員からの相談や希望を働きやすい環境作りに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や勤務変更など協力し合いお互いが思いやりをもって働ける職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内やオンライン研修などに積極的に参加するよう努めている。職員のスキルアップの為、毎月介護に関する本を購入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加を通じて他事業所の職員との交流を深めてサービスの向上を目指している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の本人、ご家族様との面会時に不安な事、要望などを伺い、記録・把握をする。入居前に事業所見学を勧めて入居後も不安なく利用できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に要望などを傾聴することはもちろん、介護支援専門員や管理者が見学から入居までご家族様と連絡を密にし、ご家族様の潜在的ニーズや要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院や居宅の介護支援専門員から情報収集を行い、本当に当施設でいいのか代表者、管理者、介護支援専門員、職員で相談しながら行っている。往診や居宅管理指導など導入できるサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も環境のひとつなので、困った時に手を差し伸べたり、楽しい時には一緒に楽しめるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が会いに来たい時や外出したい時には出来る限り対応している。ケアプランの中にもご家族様の役割を入れ、本人に関わる全ての人や関係機関が本人を支えるネットワークづくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真や思い出のある物を持参してくださるようお伝えしている。ご家族様以外でも友人や知人も気軽に面会してくださるよう呼びかけている。	趣味の俳句や詩吟を嗜んだり、在宅時にしていた畑仕事や家事を手伝っている利用者もいる。車関係の仕事をしていた経験を活かし、車椅子のチェックをする等、馴染みの生活継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は出勤したら必ず全利用者様に挨拶を行っている。利用者間のコミュニケーションでは、職員が間に入ってコミュニケーションの手助けをすることもある。利用者様に毎日家事の役割を行ってもらうようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、相談や支援ができるよう変わらない関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者様とコミュニケーションの中で言葉として表出しない希望や意向の把握に努めている。	入居前の見学時に困っていることや要望を尋ね、その人の思いや意向を把握し、入居後も本人にどのような生活を望んでいるか、また家族からも意見や要望を聞きながら、その把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は出来る限り生活歴や馴染みの暮らし方の情報をご家族様や本人から得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議や担当者会議などで情報交換をしてより良い環境作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向をきき、管理者、職員と話し合い介護計画を作成している。アセスメントなどの計画見直しは定期的に行っている。	月1回モニタリングをしている。カンファレンスはコアラ会議の中で行い、支援の変更等について職員から意見を聞き、ケアマネジャーと検討している。介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしている。	介護計画にある利用者、家族の希望欄が毎回概ね同じなので、具体的な言葉を載せて、利用者の特徴を捉えた個別性のある計画となるよう検討してはいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録など申し送りノートに記録して情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア団体の方々が来所され交流していたが新型コロナウイルスの感染対策の為、休止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて定期的に利用者様を診ていただいております。その他受診の際ご家族様が受診対応される時は、施設での状態を記したメモをお渡ししています。	契約時に協力医か、主治医を継続するか選択できることを説明しているが、個別で訪問診療を契約している利用者もいる。歯科等の専門医への受診は家族が付添えない場合は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や小さな行動の変化など職員間で情報共有し、受診の際に伝えられるようにし、又急変時に対応できるよう記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常の様子を記録しサマリー作成をできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、事業所が対応できるケアについて説明している。利用者様本人とご家族様のニーズに応えられるようケアプランに基づいたケアを行っている。	看取りはしていない。利用者の状態に変化があった場合は、それぞれの主治医や系列病院の医師に判断を仰ぎ、指示を受けている。また、必要に応じて適切な施設と連携を図る取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、急変などの対応が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な災害を想定した避難訓練を行い、災害時に対応できるようにしている。	水害地域に該当しており、隣接する施設と合同で総合避難訓練と毎月独自の自主訓練を実施している。水、食糧品、排泄用品等を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄などの会話、言葉遣い、介助の対応、声の大きさに注意している。	利用者に合わせて声のかけ方、聴き方を変え、声の大きさにも配慮している。同性介助を希望することがわかっている利用者にはそのように対応し、食事の時間も希望に沿って柔軟に変更している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を提供する際はメニュー表の中から選んでいただいている。入浴やレクリエーションなど利用者様の希望を確認しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時など利用者様の都合の良い時間に合わせて入浴していただけるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様にお好みの洋服を選んでいただき、季節や気温にあった洋服を着用できるよう声掛けをさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の負担にならず出来る事を一緒にいき、作る事や食べる事を楽しんでもらえるよう支援している。	栄養士による献立に従って食材が届き、手作りしている。食事量と健康に気を付けており、体重が増えた場合は食事量を調整している。誕生日には手作りケーキ、どら焼き等のおやつを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は系列の栄養士が考えたバランスの良い物を提供させていただき、食事量や水分摂取量を記録し把握に努め、一人一人の状態に応じ食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人一人に応じた口腔ケアを行い、毎晩入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人に合わせた声掛け、誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。トイレの案内、声掛けなどで失敗の回数を減らすよう努めている。	トイレでの排泄を基本とし、チェック表や利用者の様子を見ながら誘導している。自立者は3名、他の利用者には声をかけ誘導している。日中はリハパン、夜間はおむつを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に一回は乳製品を提供し、こまめに水分補給をしていただくように支援している。D VD体操や散歩などで適度に運動してもらえるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の都合の良いタイミングで入浴できるよう心掛けている。入浴を嫌がる方には時間をずらしたり声掛けの工夫をしている。	異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応している。拒否者には言葉がけを工夫し、連日でも入浴できる旨の声かけをしたり、午前、午後と時間をずらす等利用者を優先した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調や希望に応じて自由に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬リストのファイルを作成し、効能や副作用などの理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションなどに参加していただき気分転換できるように支援している。食べたいお菓子を伺い、おやつに提供できるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したり、中庭の手入れをして楽しんでいただいている。また、自宅への外出などの支援もしている。	コロナ禍で自由に外出できない状況にあるが、車内から花見をしたり、少人数で外出している。日常的には畑や花の水やり、家族や職員と受診後に買い物をする等、外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様同意のもと、本人の希望があれば現金の所持は出来るようにしている。預り金の中から必需品を買い足すこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、職員の付き添いのもと電話使用の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内から中庭を見渡せ野菜や草花の成長を見ることができるよう植えかえている。リビングの壁画の飾りつけでも季節感を出している。	キッチン入口の皆に見える所に、利用者が日付や献立を書いたホワイトボードがある。テーブルや椅子が整然と並んでいるが、利用者同士が会話をしたり、居室間を行き来する様子に自由さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の思いを尊重し、個室やリビングなどで自由に過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や飾ってあった物など、利用者様が安心できる物と快適に生活していただけるよう安全で心安らぐ環境作りに努めている。	入居時に使い慣れた馴染みある物を持ち込むことを説明しており、在宅時と変わらぬ環境となるような居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで個々に合わせた安全な生活が送れるように支援している。利用者様の状態の把握に努め残存機能を生かせるよう支援している。		